平成 26 年 12 月 22 日発行

ゆ き つ ば き 通 信

第　163　号　　大町山岳博物館友の会

行　事　の　ご　案　内

「山と博物館」もご覧ください・・・・・

冬のライチョウについて、座学とフィールドでの学習会・観察会についてのご案内です。観察会へ参加される方は、2 月 22 日の学習会と続けて実施される事前打ち合わせに参加されることが参加条件になります。

【山岳博物館・友の会共催事業】
大町市制施行 60 周年・合併 10 年記念

冬のライチョウはどんな生活をしているの？

冬のライチョウの生活はなぞが多く生態が明らかにされていませんでしたが、近年いくつかの山域でその生活がわかってきました。肴倉孝明さんは白馬乗鞍岳周辺において調査を進めてきました。この度はその研究成果をもとに、冬のライチョウの生活をわかり易く解説します。

《期　　日》　平成 27 年 2 月 22 日（日）　午後 1 時 30 分～3 時
《対　　象》　小学生～大人　（募集人員 50 名）
《場　　所》　市立大町山岳博物館　講堂
《講　　師》　肴倉孝明さん（山岳環境研究所 所長）
《参 加 費》　無料
《持 ち 物》　筆記用具
《申し込み》　不要

※3 月 8 日開催の「大人のための自然観察会-冬のライチョウを見に行こう！-参加希望者は必ず受講してください。

【山岳博物館・友の会共催事業】
大町市制施行 60 周年・合併 10 年記念

大人のための観察会- 冬のライチョウを見に行こう！-

ライチョウが冬、どこで、どのように過ごしているのか、その実態が徐々に明らかになってきました。この度は、山岳環境研究所所長 肴倉孝明 博士を講師に迎え、白馬乗鞍で冬のライチョウの生態にせまります。

《期　　日》　平成 27 年 3 月 8（日）　午前 8 時～午後 5 時
《対　　象》　下記全行程を歩くことのできる大学生以上の大人で、事前学習会(2/22) に参加できる方
《募集人員》　20 名（定員になり次第、締め切り）
《場　　所》　栂池高原駅 ～ 栂の森駅（周辺散策）～ 栂池高原駅
《講　　師》　肴倉孝明さん（山岳環境研究所 所長）
《参 加 費》　一般：大人 4,500 円　会員：大人 3,000 円
《申し込み》　平成 27 年 1 月 6 日（火）から 2 月 20 日（金）　電話・FAX または直接、友の会事務局へ　(Tel/Fax0261-23-6334)

※1 保険加入後のキャンセルには、キャンセル料(500 円/1 人)のお支払いが必要となります。
※2 当方が加入する山岳保険（団体）のほか、個人でも登山保険にご加入されることをおすすめいたします。
※3 スノーシューは登山用を各自でご用意ください。
※4 詳細は事前学習会(2/22) でご案内します。

博物館からのご案内・・・・・

○年末年始の休館日は、平成 26 年 12 月 29 日（月）～平成 27 年 1 月 3 日（土）となります。
○ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」の営業は、12 月～来年 3 月まで、土・日、祝日のみとなります。

報　　告

【山岳博物館・友の会共催事業】
大町市制施行 60 周年・合併 10 年記念・「信州山の日」制定記念
古道 塩の道を歩く ―大町宿

平成 26 年 10 月 13（月･祝）開催　参加者 12 名（内、一般 1 名）

友の会では平成19年に日本海をスタートし、西回りコースによって北から南へ毎年リレー形式で千国街道「塩の道」をたどってきましたが、昨年ついに大町市へ到達しました。この催しは平成 19 年以前、平成 13 年からの６年間には塩の道東回りコースなどの一部を歩いており、それらを合わせると今回で通算14回目となりました。シリーズとして企画してきた「塩の道を歩く」の催しですが、今回ようやく大町市街地まで到達するコースとなったため、今年の実施をもって一区切りとすることになりました。実施に際しては昨年度に引き続き、今年度も山岳博物館と友の会の共催事業として開催し、友の会会員のほか、大町市民にも広く参加していただける催しとしました。

今回は、塩の道をたどる古道歩きの完結編として、大町市街地の「大町宿」周辺約３㎞のコースを約３時間かけ、往時の宿場町の様子を想像しながらゆっくりと散策しました。当日の参加者は 12 名（一般参加者１名、友の会会員 11 名）。今年も例年通り、講師に元大町市文化財センター文化財指導員・相澤亮平先生をお招きしました。この日

は台風１９号の影響で、あいにくの雨降りとなりましたが、午前中は小雨でしたので予定通りのコースを、カッパを着たり傘をさしたりして歩きました。

「塩の道ちょうじや」を出発し、道向うの八日町太神宮・西の宮へ。ここは日ノ出町へと続く路地沿いにありますが、夜の繁華街に通いなれた参加者からは「こんな所にこんなお宮があったとは･･･」との声も。五日町交差点で、この付近がかつて宿場町特有の「鍵の手」街路であったという解説を受け、駅前本通り東側の通りを北上。八日町毘沙門堂や松本藩他屋跡（蔵の音楽館・アルプス囲碁村会館周辺）に立ち寄り、名店街横・北福島の駐車場内を通過して本通りへ。今回の担当運営部員としてスタッフをつとめていただいた西沢副会長のご自宅は付近で、この地で生まれ育った方ならではのお話をうかがうこともできました。さらに、市野屋商店前を経て、九日町交差点で道路元標を見学。かつての町屋風情を残す民家などを見ながら、大黒町・追分へ。ここでは、道標も兼ねた庚申塔や青面金剛像、大北地域最古という大黒天の巨像といった石造物を間近に見ながら解説をいただきました。そして、若一王子神社を見学後、折り返し。参道脇から俵町を経由し、本通り西側の通りを南下。弾誓寺を見学後、参道を通り旧就労センター付近の旧郡役場跡、麻倉を経由し、栗林医院脇の通路から本通りへ。旧大庄屋・栗林家の旧宅「創舎わちがい」前を通り、もと来た「塩の道ちょうじや」へ戻りました。コース途中の各ポイントでは、大町宿にかかわる歴史・民俗について相澤先生から解説をいただいたほか、文化財にまつわる史跡では、清水学芸員からも説明がありました。

昼食をはさんだ午後は、「塩の道ちょうじや」の座敷広間をお借りしての座学を開催しました。過去に歩いてきたコースをふり返りながら、「塩の道の全体像について地名をさかのぼる―大北地域の地名由来考」と題し、相澤先生から解説をしていただきました。静かな口調で、時折ユーモアを交えながらのお話には、全員が聞き入って、あっという間に時間が過ぎてしまいました。まとめの会を行って一旦解散とした後、塩の道の歴史文化を展示する「塩の道ちょうじや」を自由見学して日程を終了しました。

普段、何げなく車で通りすぎている市街地にも大町の歴史文化を今に伝える場所が数多くあり、参加者のみなさんには、地域の歴史・民俗を広く知っていただく良い機

会となりました。
　相澤先生には、「塩の道を歩く」全 14 回のうち、第 2 回目から毎年講師をつとめていただき、毎回詳細なテキストの原稿をご執筆いただきました。長年にわたり本当にありがとうございました。来年度以降、新たな企画で地域の歴史文化を学ぶ催しを実施したいと考えています。台風が接近する中、お集まりいただいた参加者の皆様、お疲れ様でした。

（担当運営部員：宮田・西沢、事務局担当：関・清水(隆)）

塩の道ちょうじや	１０:００集合
はじめの会	１０:００～１０:１０出発（徒歩）
八日町太神宮・西の宮	１０:１０
八日町毘沙門堂	１０:１５
松本藩他屋跡（蔵の音楽館･ｱﾙﾌﾟｽ囲碁村会館周辺）	１０:３０
市野屋商店	１０:４５
道路元標（九日町交差点）	１１:００
追分　庚申塔・青面金剛像、大黒天	１１:２０
若一王子神社	１１:４５
弾誓寺	１２:２０
栗林家旧宅（創舎わちがい）	１２:４５
塩の道ちょうじや	１３:００到着
昼食	１３:００～１３:４５
講師解説	１３:４５～１４:４５
まとめの会	１４:４５～１５:００解散
（館内自由見学	１５:００～１６:００）

烏帽子の会 活動報告

☆牛伏川源流散策

《月日》9 月 15 日（月・祝）　《天気》晴れ　《参加者》　13 名

烏帽子の会 9 月例会は 9 月 15 日 当初予定の十石山を変更、牛伏川源流で国の重要文化財指定である階段水路工にて明治の土木工事の跡を学習しながら散策、鉢伏山登山コースの途中までを登り、最後に牛伏寺を巡る教育的要素の強い山行が計画された。今回は宮澤リーダーのもと、初参加の 1 名を含め計 13 名の参加であった。

8:00 松川道の駅出発 9:00 連岳橋駐車場より歩きはじめ、まずフランス式階段工見学。

階段工前での集合写真　明治・大正の見事な土木工事に感嘆な思いの中で

明治・大正に形作られ、それを今も守る人たちの汗の結晶に感心しながら、途中地獄谷のような急坂もあったが 11:45 に石切り場に到着。そこが展望台で槍・穂高をはじめ北アルプスや中央・南アルプスまで臨みながら楽しい昼食

昼食後、本日の最高地点ブナの木権現へ詣り、その後は一路下山、帰りに牛伏寺で「お経 600 巻を善光寺へ納めに参る牛 2 頭がこの寺の前で倒れ、その縁で牛伏寺の名前がついた」事を学び、崖の湯「薬師平茜宿」温泉で疲れを癒し、松川道の駅に 17:00 到着した。

松本平と穂高・槍・常念と続く山並み

今回の砂防工事は、横浜・名古屋・神戸・新潟の４大港を守る目的のうち新潟港守る工事である事も知り得た。広島での土砂災害の直後であり、明治の時代からこのような大規模な素晴らしい防御がなされた先見の明と技術の素晴らしさに敬服するとともに、非常に教育に富んだ意義深い山行でした。

☆《四阿屋山（1387m）》

《月日》11 月 24 日（月・祝）　《天気》晴れ　　《参加者》　9 名

《コースタイム》

8:30 明科支所２台の車で出発⇒9:15 まんだらの庄到着⇒9:30 四阿屋山坂井口登山口出発⇒10:00 一の鳥居⇒10:30 二の鳥居⇒11:00 四阿屋山頂上⇒11:05 展望台⇒12:00　展望台出発⇒13:10 登山口到着⇒13:40 まんだらの庄出発⇒14:00 「シェーンガルテンおみ」温泉到着⇒15:00:「シェーンガルテンおみ」出発⇒15:45　明科支所到着　解散

《コース状況；その他周辺情報》

登り始めは急坂で息も切れたが、先頭の松井（啓）が早めに休憩をいれてくれてそれほど負担なく進めた。一の鳥居を過ぎたあたりからゆるやかな落ち葉の道になり気持ち良く進めた。途中樹木の切れ間があり、北アルプスの新雪姿が間近に見え、しばし見とれてしまった。二の鳥居を過ぎると再び急坂になったが、頂上が目の前と言う事で皆さん元気よく頂上到達。頂上より五分ほど下った所に展望台があり、槍・穂高・白馬をはじめ北アルプスの主だった山々を眺めながらの楽しい昼食と松村慶子さんの 75 歳の祝賀式をを終え、下山開始。下りの落ち葉道は心配もあったが、午前中に比し、道が乾いてくれていて、慎重ながらも快調なペースで下山できた。

《感想》

当初計画した 11 月 1 日、東信の大峰山行が雨天中止、コースを変更し 24 日に設定したが、週間天気予報はあまり良くなく、また 22 日には長野北部地震も発生し、その影響で参加できない人も出てきて、地震による途中の山道の樹木倒壊・落石等も心配されたが、前日の下見で影響が無いことが確認出来、心配ながらも当日強行することとした。冬場に近いこともありコース時間は割合短めを設定したがそれが正解。天気予報よりはるかに良い小春日和の暖かい日射しの中、ゆっくりしたペースで気持ち良く登山できた。お天気に恵まれ、展望台からの景色は抜群、目の前の

蓮華岳をはじめ、それに続く南北の北アルプスの名山を心ゆくまで鑑賞できた。帰りによった「シェーンガルテンおみ」は田舎にこんな洒落た所があるのかと思われる、その名の通り、西欧風の施設で、ゆっくり温泉に浸かり疲れをいやした。露天風呂から北アルプスが見える予定であったが残念ながら雲が発生し展望は望めなかった。全体に滑りやすい道で、下りは特に心配であったが、皆さん軽快な中でも慎重で、一人の転倒者も出なくて下山できたことは最高の喜びである。

「北アルプスの　雪姿　眺めつ進む　四阿屋山　小春日和の　お祝い登山」

ボランティアサークル便り

11 月 3 日の除草ボランティアで一応屋外での作業は終了しました。春から今年もご協力有難うございました。3 月までは毎月第 4 日曜日『封書詰め作業』がありますので今後ともよろしくお願い致します。

3 月までの予定を検討しましたので以下の通りお知らせ致します。

asis79.7 オトナの遠足バスツアー御一行様ご案内

◎1 月 25 日（日）14：00～　終了後新年会を予定
◎2 月 22 日（日）は雷鳥に関する企画がありますので、時間は今のところ未定。
◎3 月 22 日（日）時間は未定。

ボランティア研修案内報告

富山市　ファミリーパーク～岩瀬北前船廻船問屋

山と博物館 12 月号もご覧ください

10 月 25 日（土）、今回の研修はこの上ない好天の富山市を訪ねました。

富山市ファミリーパークでは、動物担当の石原課長のご案内で、同園の友の会やボランティア組織の活動の様子やスバールバルライチョウの保護増殖事業の意義などを伺いました。

ファミリーパークでは現在３種の友の会･団体が活動しているという事でした。「市民いきものメイト」はボランティア団体で､園内整備などの里山体験を通じて一般参加行事を含めてさまざまな里山利用をしています。「きんたろう倶楽部」は森づくり活動を中心として、園内の荒廃防止や寄付による木道づくりなどを進めています。「動物友の会」はファミリーパーク利用の特典のついたもので､園内を中心に例会（友の会事業）が持たれています。

スバールバルライチョウの飼育では、各地の飼育園が連携し、いろいろな飼育ケースを試みリスクを分散させながらライチョウの保護増殖を進めることを目指しているということでした。

午後は岩瀬地区で街並みボランティアガイドの豊田様によるガイドツアーをお願いしました。テンポの良いはっき

りした語りで私たちをひきつけました。北前船廻船問屋・森家の館長さんの滔々と流れるご案内も名物物でした。

今回の富山も駆け足での訪問になりましたが、機会があればまたゆっくりお訪ねください。

山博展示改装　解説ボランティアガイド録音より 2

２階生き物展示について（解説：清水副館長）

先ほど、入り口の方では地球がどのようにしてできて来たか、どのような生き物が生まれ、消えて行ったのかが展示されていましたが、こちらは今の北アルプスの生き物のことについて展示しています。現在の北アルプスがどうなっているのか、どうしてこれらの生き物が生きているのか、ということで、導入部として氷河の写真とか気象の表が出ています。そして、今の北アルプスの象徴的生き物はカモシカとライチョウということで、まず、入り口ではカモシカの展示を行っています。壁面の長いコーナーについては、ガラスを外したくらいで、大きな変更はありません。大幅に変えたのは中央部で、カモシカの部分とライチョウの部分になります。

ここに面白いラベルを置いています。ここは動物のコーナーですが、「１階」と書いてあって、ニホンカモシカと書いてあります。1 階の展示室にも同様にあり、「奥山の恵と生業、狩猟」とのつながりを探してみよう！と書いてあります。1 階は民族の関係の展示になっていて、カモシカを狩猟の立場から説明していますが、ここではカモシカを動物として知ってもらうことも大切ですし、１階の展示との兼ね合いで両面から見ていただこうということで、共通する展示物についてはこのようなラベルがついています。カモシカ、コマクサ、イワナなどのところにあります。ここだけでなく、下へ行っても関連づけた物を見ていただきたいと思います。

ここのカモシカの展示はどちらかというと学校の授業用に向けて構成しています。ひとつは理科の授業でやっていますカモシカの体を通して人の体の動きや作りの学習があって、大町はカモシカを使うのですが、それに合わせて作ってあります。これは一頭のカモシカから皮からははく製を作って、肉をとった骨で骨格標本をつくりました。まったく同じ個体から二つの展示を作りました。はく製では膝の位置などわかりにくいですが、骨を見るとわかりやすいです。どうやって歩いているかというと、つま先立って歩いています。爪のついている位置にも注目してくださ

い。犬や猫も同様です。人間のようにかかとまで地面につけて歩く動物は他にはゾウがあります。つま先ではありますが、指のついている位置は後ろ寄りになったりしていますが、基本的にはかかとがあがった状態で歩いていることが骨格標本を見るとわかります。前脚についても同様に確認してください。

次にカモシカとニホンジカとの比較です。ニホンジカは大町でもだんだんと増えています。大きさ、脚の長さなどの違いがありますが、脚の長さは棲んでいる環境の違いでもあります。ニホンジカは草原を速く走るために脚が長くなっています。カモシカは雪が深いところをラッセルして歩く体となっています。頭骨の違いも展示してあります。

ライチョウの生活のコーナーです。今までもライチョウのコーナーはありましたが、新しく映像も取り入れて新しくコーナーを作ってあります。四季を通して春から一年間、ライチョウがどのような生活をしているかがわかる展示になっています。６月には卵を産みはじめて、７月になってヒナがかえって、秋になるとヒナは親と同じくらいの大きさになっています。秋から冬になると白くなってきて、３月になると次の繁殖に向けて縄張りづくりに入っていきます。春になってつがいができて卵を産んで･･･１年間かけたライチョウの生活がわかるようになっています。これが部屋の中央部の展示ですが、別コーナーではライチョウはどのような生き物かということで、どんな種類があるのか、エゾライチョウや世界のライチョウのはく製があり、紹介されています。山博で飼育したヨーロッパオオライチョウもあります。森林に棲んでいるもの、樹上に生活するものなど、いろいろなライチョウがいることを説明しています。

反対の壁ではライチョウの天敵を展示しています。イヌワシもいるし、カラスもいます。カラスは人の登山によるゴミの持ち込みに誘発されているのかもしれません。最近、実際に山で卵を獲るなどの行動が観察されています。最近増えているのはチョウゲンボウです。本来里の鳥です。たとえば、松本の駅前のビルでも繁殖しています。河川敷の橋桁の裏側や電気屋さんの看板で巣を作ったりしています。夏の時期は高山に上がってヒナを獲ったりしています。山の上では巣は作りませんが。このように食物連鎖を含めて紹介しています。

編集部より　　友の会会報「ゆきつばき」原稿募集

例年通り、一般原稿、行事参加の感想文、趣味や研究の成果、山行記、随想等等、山や自然、博物館活動にかかわること（こじつけでも）でしたら、何でもかまいません。会員に向けて、近況などお便り形式でいただいても良いかと思います。写真やスケッチなどがありましたら添えていただけるとありがたく思います。ワープロなどで作成の場合は、テキストデータもいただければ、大変助かります。

原稿の締め切りは２月中頃とします。また、こちらから原稿をお願いすることもあろうかと思いますが、ぜひご協力をお願いします。

原稿は takuya-m@juno.ocn.ne.jp（丸山卓哉）宛てお送りいただいてもかまいません。その際、件名に「ゆきつばき 43 号原稿」等をお付け下さい。写真等も添付できます。受領確認した場合は返信しますのでご確認ください。

H25 年の 42 号は編集中です。H26 年度分の 43 号は４月総会で発行の予定です。

平成 27 年度友の会総会の予定

次年度の友の会の総会は、4 月 26 日（日）を予定しています。詳細は追ってご案内します。

日本山岳画協会展 大町展 ギャラリートーク

ゆきつばき通信編集室より

自分が生きているうちに糸魚川－静岡構造線活断層系の断層が活動するとは思いもしませんでした。11 月 22 日、白馬小谷を中心に多くの被害をもたらした神城断層地震、友の会関係の方々も多少の影響や被害を受けられたかと思います。被災された方々にお見舞い申し上げます。

すでに大雪となった県北部。地震の爪痕を隠すようでもあり、融雪期の土砂災害等、不安要素をさらに広げるものとなっています。十分な警戒をお願いします。

かつて一連の活動をしたとみられる神城断層は大町市街地付近まで伸びています。今回その南半分を動かさないまま残していることは不気味です。さらに、大町から松本にかけて全く静穏なのも気になってきてしまいます。

南木曽の土石流、御嶽の噴火。地震や大雪。美しい信州の自然とは背中合わせにあるものです。災い転じて来る年が皆様にとって良い年になることをお祈りいたします。来年の行事のご案内は冬のライチョウです。どのようなところへ行くか、十分お調べいただき、必ず事前学習会と打ち合わせにも参加してください。

（丸山卓哉）

ゆきつばき通信　第 163 号

発行／大町山岳博物館友の会　　平成 26 年 12 月 22 日

〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334
会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会
山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています